

第 1 章 実践事例集の活用について

1 「命の大切さを実感させる教育プログラム」実践事例内容一覧

	番号	学年	テーマ	主な学習・体験	実践の参考となる 教育プログラムモデル
小学校編	1	5年	「以心伝心」の仲間をめざして	名前発表会、ストレスマネジメント、いじめについて考える、構成的グループ・エンカウンター	②・④・⑤
	2	5年	いのちへのまなざし	ブックトーク、子守歌の学習、保育園との交流体験活動、絵本づくり	①・②
中学校編	1	1年	命の重みを考えるー沖縄・阪神淡路大震災・生きることー	沖縄の歴史・文化の学習、出産した母親から子どもが誕生した喜びを聞く体験、絵本の活用（『葉っぱのフレディ』）	①・②・③・⑤
	2	3年	命のつながりを実感するー「生」と「死」を見つめることをとおしてー	構成的グループ・エンカウンター、ストレスマネジメント、台風23号についての学習、大切な人をなくした悲しみにふれる体験（聞き取り活動）	③・④・⑤
高等学校編	1	全学年	こころ・からだ・いのちを大切に、生き方を考える	エゴグラム、救急法のグループワーク、ふれあい看護体験、大切な人をなくした悲しみにふれる体験（ゲストティーチャー）	③・④・⑤

2 「教育プログラム」の使い方のポイント

小学校事例6

『命の大切さ』を実感させる教育への提言
第Ⅱ部 実践編 教育プログラムモデルの
項目に沿って実践をまとめています。

- 1 テーマ
かけがえのない命・つながる命

2 実践のねらい

身近な人との関わりをとおして、老いや病にふれる体験や、死の悲しみにふれる体験などから、命の有限性や死の普遍性・絶対性に気づき、自他の命のかけがえのなさに思いをはせる。さらに、死の悲しみや苦しみに向き合う人々の思いに接し、人とのつながりを感じ、強く生きようとする心について考える。

3 テーマ設定の理由

- (1) 本校の概要と児童生徒の状況

本校区は、淡路島の北部の自然豊かな地域で、交通の便は便利になったが、過疎化には歯止めが効かず、児童生徒の数は35名までに減少している。子どもたちの暮らしぶりも変わり、豊かな自然とそれほど大きな差はない。子どもの遊びの形態も変化し、テレビ、ゲーム、パソコン等が中心となり、「命」を軽視した様々な情報刺激もあふれている。また、農村地帯であるため3世代同居家庭が多く、祖父母を含めた地域の老人と接する機会は比較的多くあるが、高齢者はかつてのように人生の終末を自宅では迎えることは少なく

各学校の実践に至った経緯や背景・児童生徒の実態について記載しています。

- (2) 指導のポイント

【感動の体験】

- ・死というものを見つめ、死を身近に感じる。
- ・自分の命は両親の願いの結晶である。

【感性を育む】

- ・遺された者の悲しみを通して、自分自身の生き方を考える。

【想像力の育成】

- ・すべての生き物には寿命があり、自然の摂理を理解する。

実践のねらいを達成するために、どのような感動の体験をするか、子どもたちの感性や想像力にどのように働きかけるかなどの「指導のポイント」を記載しています。

4 事前

- (1) 先生の準備

- ・授業の中だけでなく、授業外でも実践を行う。
- ・教員自身の死に対する思いを整理し、子どもに伝える。
- ・家庭や地域に学習について理解を求め、協力を得る。
- ・現在悲嘆にある子どもがいないよう、個別指導を充実させる。

・テーマに関連した資料や情報の収集
・子どもたちの状況の把握
実践に先立って必要な教師の準備について記載しています。

- (2) 教育課程上の位置づけ

- ・国語
- ・理科（植物・生き物等の分野）
- ・体育（保健分野）
- ・家庭
- ・道徳
- ・総合的な学習の時間

道徳・特別活動・教科・総合的な学習の時間といった教育課程上の位置づけや単元構想について記載しています。

- (3) 子どもたちの準備

- ・自尊感情を高める体験をする。
- ・デジタルカメラの使用技術を習得する。

実践を行う前に、学習や体験の内容について、子どもたちに興味や関心を抱かせ、主体的に取り組めるようするためにはどのような準備が必要かについて記載しています。

- (4) 家庭・地域との連携

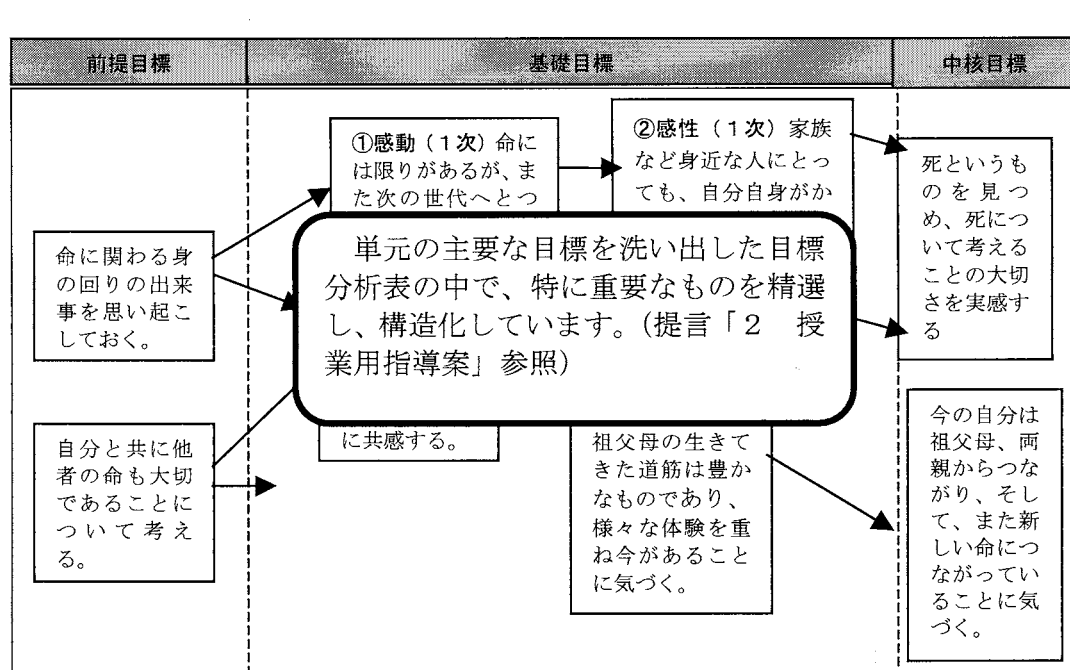
- ・地域の人々に対し、アンケート調査を行い学習を実施することについての理解を求める。
- ・特別養護老人ホームで継続的に体験学習ができるよう、関係機関と連携する。
- ・祖父母、その知人、家族に対し学習のねらいを伝え、協力を得る。

事前に家庭や地域へ依頼する事項や配慮すべき事項について記載しています。

6 目標分析表

	学習活動	感動の体験	感性を育む	想像力の育成	先生の振り返り
事前	○自尊感情を高める体験をする。	○自他の命の存在に気づく。	○命に関わる身の回りの出来	○自分と共に他者の命も大切	
1次（5時間）	○「命」をテーマに写真を撮り、話し合う。 ○家族や大切な人、またはペットを亡くした体験を出し合う。	縦軸に学習の内容を、横軸に3つの指導のポイント「感動の体験」「感性を育む」「想像力の育成」を観点として配し、子どもたちにどのような力を身につけさせたいのかという目標を明確にしています。（提言「2 授業用指導案」参照）			○一つの命には限りがあるが、その命はつながっていることを理解させることができたか。
			つながりを感じる。	を実感する。	

7 目標構造図



8 事前の教員研修と指導の概要

(1) 事前の教員研修

研修内容	
a	○自尊感情を高める体験をする。＜提言『わたしはわたしが好きです。なぜなら』『ここがあなたのいいところ』＞
b	○自己再発見の体験をする。＜提言 P68「私の人生の振り返り」＞
c	○医療施設や老人福祉施設等で行われて ・老・病・死と向き合う人々の様々な考え

子どもたちに指導する前に、教員自身が実践するテーマに関して、どのような手法や内容で研修を行ったかについて記載しています。
(2) 指導の概要の中で研修の実施時期について明示しています。

(2) 指導の概要

研修内容	
事前	○ 自尊感情を高める体験をする。(1時間)
1次 (5時間)	○ 「死」を見つめる 1 季節の変化による生き物の様 2 校庭に出て子どもたちにデジ 3 家族や大切な人、ペット等を 4 「北朝鮮拉致被害者の会 有 学校の状況、子どもたちの実態や発達段階に応じて、計画・実施された内容を、指導の概要として示してあります。 教師研修 a
2次 (10時間)	○ 自分と祖父母の伝記を作る 1 家族から聞き取ったりして自分の 2 自分の祖父母の今までの人生の道筋を聞き取り、まとめる。 3 ゲストティーチャーで来てくれた祖父の今まで生きてきた道筋を聞く。 4 聞き取った自分の祖父母の伝記を作る。 5 できあがった伝記を発表し合い、人生の豊かさと多様さを感じ、誰の人生もかけがえのない大切なものであることを実感する。 指導実践の内容について詳細に記載している頁数を示しています。 教師研修 b

9 指導実践

【展開】

	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	1 今の自分にとって大切な人やペット等を想いかべ、みんなに紹介する。 ・ 「わたしはお母さんが大好きで、一番大切な人です。」 子どもたちの反応(発言・感想など)についても記載しています。	・ 教師の説明例 ・ 板書例 など実施した授業の内容や指導上留意すべき点について記載しています。
展 開	親が、我が子を亡くした悲しみとはどんなものかを感じとってください。 ・ 親が子どもを亡くすと、こんなに悲しいんだ。ばくのお母さんやお父さんも同じなんだろうと思う。 ・ このお父さんは、奥さんを亡くして、また子どもを亡くしたんだ。心はぐちゃぐちゃになってしまうだろう。	「先生は交通事故により、突然にお父さんを亡くしました。お父さんは、大学卒業直前の弟に最後の仕送りをした後に事故にあいました。その後、しばらく電話のベルが怖かったのです・・・。」 子どもたちの気づきを促したり思考を深めたりするための教師の主要な発問を記載しています。

【子どもたちの振り返り】

振 り 返 り カ ー ド	
年 組 名 前 ()	
	学習・体験の目標 (めあて)
感動の体験	○自分を大切にすること、相手を大切にすることについて考えよう。
感性を育む	○あなたの大切な人が、とをしてくれたか考えよう。

子どもたちが学習・体験の後に、自分の活動内容や心の動きを振り返るための振り返りカードを記載しています。